

われらが町内 わがグループ

ホタル飛びかい 夏は来ぬ

～茂内屋敷～

No. 11

小坂線茂内駅を挟んで東西に伸びる戸数36、人口150人の茂内屋敷は、広い山地と長木川の佳景を望む静かな村です。

かつては、大館・小坂間を日に10数回往復する電車が村の人たちの大事な足でしたが、今では殆どの家がマイカーを持ち、一両きりの電車ものんびり通って行きます。

周囲には豊富な天然林が生い茂り、かつては営林署を中心に活気を呈した村で、今も村の多くの人たちが農業をやるかわら営林署の作業員として働いています。雪沢地区で最初に電気の灯がともったのもこの村で、また隣村の二ツ屋との間に営林署の軌道が走っていたこともあります。

この村のユニークな活動としては、田植えあがりの日に行う「虫追い」の祭りがあります。わら人形の顔に半紙を張り似顔絵を描いて田んぼに持って行き五穀豊穡を祈願します。また、旧の6月1日には「鹿島祭」がくり広げられます。

川に舟を流し始めると村のあちこちから太鼓と笛の音が鳴り響き、静かな村もこの日ばかりは夜遅くまで賑わいをみせます。さらに8月の盂蘭盆の頃には、雪沢地区青年会が主催する相撲大会が、



力自慢が集まって相撲大会

公民館前広場でくりひろげられます。この日は鉾山で働く若者たちも飛び入りするなど、日頃鍛えた腕自慢、力自慢が集まり闘い始めると、若者のみならず、村の人々は熱狂します。

子供たちにとっても、この村の自然の世界は宝の山といえます。溪流での魚釣りや、セミ、カブト虫、トンボなど、町ではみかけなくなった昆虫が、まだたくさん生息しています。さらに去年の夏は久しぶりに螢が大量に発生しました。一時、農業などの影響で水が多少にごったため殆ど見られなかったのが、自然保護への努力のおかげで、去年の大量発生となったようです。夏の夜のひととき人々に憩いと安らぎを与えてくれるこの螢の出現は、祭りと共に茂内屋敷の夏に一層の彩りを添えてくれることでしょう(町内会長 川田耕公さん)

古くから伝えられている曲ワッパ製法



本市の木製品産業のひとつとして産地指定、いわゆる伝産法指定へ向けて大きく前進しました。大館曲わっぱ協同組合は、一

昨年以來本市の伝産品、曲わっぱの伝産法指定をめざし、百年以前から製作されていたことを示す資料や、指定に伴う書類の準備に全力をあげてきました。市民の協力もあって、裏付けとなる古文書の発見や、さらに宝暦年代(約二百二十年前)のものと思われる現物が、市内の旧家から見つかったことにより、同法の指定への諸条件を大筋整えたことになりました。

また、七月四・五日の両日には、伝産審議会専門委員や、通産省、仙台通産局の担当官一行が本市を訪れ、工場視察や現地調査を行い、現状の確認をしました。さらに今後の取扱いや手続き書類等について、業者や関係機関との話し合いも行われ、8月中旬から9月上旬に予定されている指定審査会を前にいよいよ大詰めを迎えたことになりました。

同法は、伝統的技法による地場産業の育成、振興を目的としており、昭和四十九年から施行されたもので、指定後は目的に沿った各種事業に対して積極的に助成することになっており、「伝統的工芸品」のマーク表示によって、販路が広く全国に及ぶことが見込まれており、地元からの大きな期待が寄せられています。

大館名物曲ワッパ

伝産法指定へ大きく前進

本市の木製品産業のひとつとして、古くから受け継がれ、今日もなお生き続けている大館曲わっぱは産業が、国の伝統的工芸

品として産地指定、いわゆる伝産法指定へ向けて大きく前進しました。大館曲わっぱ協同組合は、一

納税はくらしと
市政を結ぶ糧
今月は
固定資産税2期
保険税1期
の納期です

△合同金婚式・6月25日▽
「永い間ごろうさん、これからはよろしく」と互いにねぎらいつつ、楽しい一日を過ごしました。

フォトニュース



△婦人バレー大会・7月1日▽

若年の部、中年の部に分かれ各地区代表のママさんが、県大会の代表をめざして大ハッスル



△市民プール開き・7月1日▽
いよいよ子供たちにとっては楽しい夏の訪れ。ハダカ天国が今年も賑わいます。



フォトニュース



No. 8

国の天然記念物

「芝谷地湿原群落」

昭和11年9月3日指定
所在地・大館市釈迦内
管理者 大館市

市の中心部から国道七号線を北へ約五キロ釈迦内鉾山入口を過ぎると、左側に面積七ヘクタールの小湿原が目に入ります。ここが、国の天然記念物に指定されている「芝谷地湿原植物群落」です。



いま、ハナショウブが真盛りの芝谷地は、おが国屈指のノハナショウブ大群落をはじめ、タヌキモ、モウセンゴケ、ネジバナ、アサヒランなど約

二十種にもおよぶ湿原植物が自生し、春の訪れとともにザゼンソウが花を開き、六月にはトキソウ、七月に入るとノハナショウブが一斉に咲き誇り、続いてカキラン、コオニユリ、タチギボウシと次々にきれいな花を見せ、また、八月から十月にかけてはミミカキグサやヒメシロネ、カワギキョウ、それにオヤマリンドウなどの開花期でもあり、春から秋にかけて各種植物が、訪れる人々の目を魅了してくれました。

この湿原は、小高い丘に囲まれて外部と完全に隔離されている状態で、植物の保護には好条件でしたが、ここ数年は周辺の開発も進み、外的条件の影響も次第に出てきており、湿原一帯に根強く繁茂するヨシからの各種植物の保護と合わせて、その対策に苦慮しているのが現状です。

国内でも数少ない貴重な湿原を大切に保護していきたいものです。

繊維製品の取り扱い方を知ろう ― 絵表示の読み方 ―

◆洗方(水洗い)

洗たく機と洗面器の絵の中の数字は液温の最高限度を示しており、この温度以下の洗たく液で洗ってくださいという意味です。

◆塩素漂白
三角フラスコの中にエンソサシと書いてあるものは、塩素

◆アイロンの掛け方
「高」はアイロンの温度を摂氏(℃)から三度に、「中」は二度から二度に、「低」は三度より低い温度でという意味です。また、アイロンの下の波状の表示はあて布の使用をという意味で、アイロンの上に赤で×印のあるものは、アイロンは掛けられないという意味です。

消費者の窓



系漂白剤での漂白ができますが、赤で×印のついているものは、塩素系漂白剤での漂白はできません。

